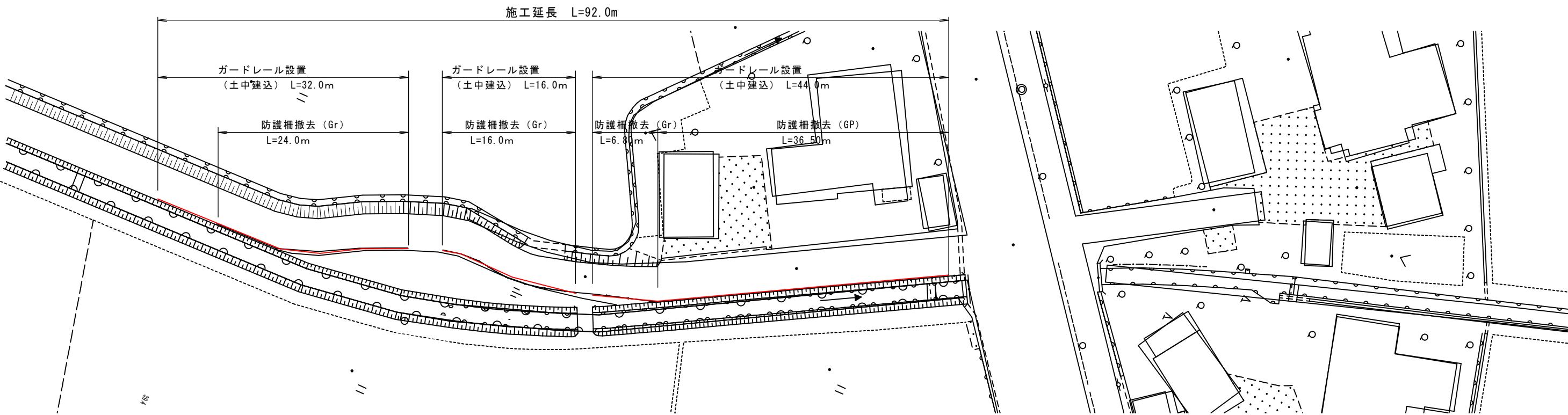


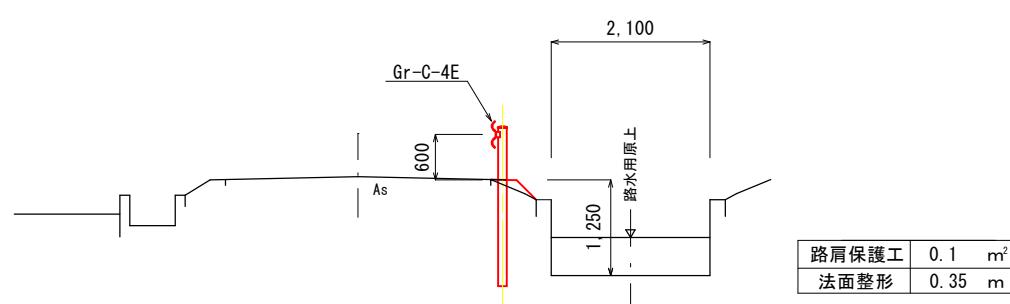
# 県単独農業農村整備事業 上野地区安全施設設置工事 位置図



計画平面図



標準断面図 S=1:50



県単独農業農村整備事業 上野地区

令和 7 年度 第 号

上野地区安全施設設置工事

下新川 ~~村~~ 入善 ~~村~~ 上野 地内

上野 地区

平面図・標準断面図 1 葉中

縮 尺  $\frac{1}{250}$   $\frac{1}{50}$  第 1 号

令和 年 月 日 製 作

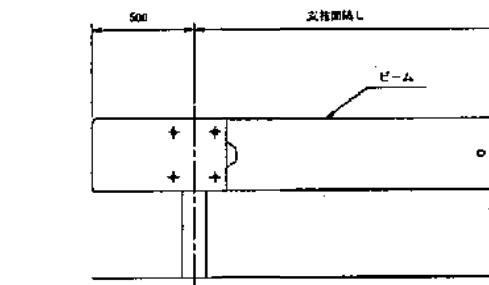
入 善 町 建 設 課

年 月 制作者 入善町建設課

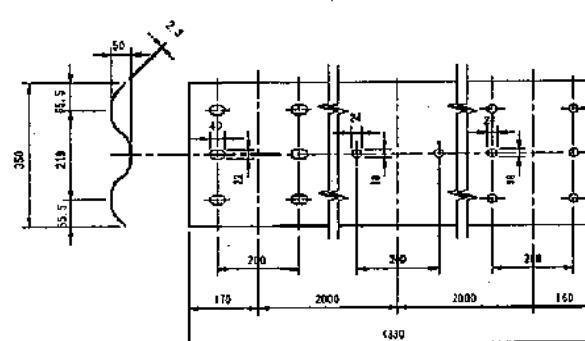
名 称 路側用ガードレール C 種

侧面四

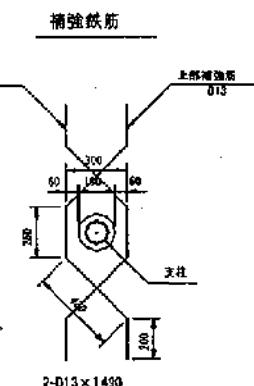
單位 (mm)



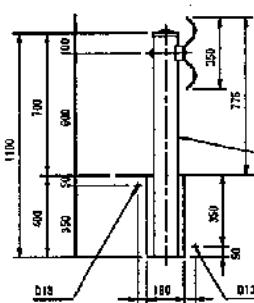
集神ピース



注) 支柱間隔4.0mの場合、中間部の支柱面積すべて無効となる。



### 断面図



注) ( ) 内寸法は積雪地域1の場合を示す

	材質	防錆処理
		塗装仕上げによる場合
ビーム (巻袖ビームを含む)	JIS G 3101 （一般構造用圧延鋼材） 2種（SS400）	・JIS G 3302「亜鉛板」の溶融亜鉛めっき法により最小重量275g/m <sup>2</sup> （両面）とし、焼酸塩処理等の下地処理を行う。 ・塗装は熱硬化性アクリル樹脂塗料により最小塗膜厚20μ
支柱	JIS G 3444 （一般構造用炭素鋼管） （STK400）	・ビームに準ずる。ただし、土中埋込部分は、亜鉛めっきを黒ワニスによる内外面塗装。
ブラケット	・ビームに準ずる。	・ビームに準ずる。
ボルト・ナット	JIS B 1180「六角ボルト」 JIS B 1181「六角ナット」 （以下同様）	・ビームに準ずる。ただし、ステンレス製の場合は無処理。

注1) 材質（ビーム、支柱、ブレケット）及び防錆処理は、上表の材料を用いるか、又は、これと同等以上とする。  
 注2) 防錆処理方法は原則として塗装仕上げによる事とするが、塗装など特に防錆力を必要とする場合は、亞鉛めっき仕上げとする。  
 ただし、ガードの幅員が3.7m未満の場合は塗装仕上げとする。

構造諸元表

構造	規格	ビーム		基礎ビーム	柱	ブリッジ		積荷ブロック	
		厚さ×幅×長さ	取扱い			厚さ×幅×長さ	取扱い	厚さ×幅×長さ	取扱い
土中通込み	1	Gr-Cl-AB	2.3×356×4330	M16×35 ST 丸鋼	2.3×356×200	114.3×1.5× 2100	4.5×70× 300	M20×145 4T	400×250
	3	Gr-C-2B	3.2×356×4330			114.3×4.5× 2200	6.0×120× 300		
	4	Gr-B-2B	3.2×356×4330		3.2×356×250	114.3×4.5× 2350	M20×170 4T		
	5	Gr-A-2B	4.0×356×4330						
									816×360
建リ通込みトク	1	Gr-Cl-2B	2.3×356×4330	M16×35 ST 丸鋼	2.3×356×200	114.3×4.5× 1100	4.5×70× 300	M20×145 4T	400×250
	2	Gr-C-2B	3.2×356×4330			114.3×4.5× 1100	6.0×120× 300		
	4	Gr-B-2B	3.2×356×4330		3.2×356×250	114.3×4.5× 1100	M20×170 4T		
	5	Gr-A-2B	4.0×356×4330						

### 〔適用条件〕

1. 防護柵の設置場所、種別及び型式選定については、「防護柵の設置基準・同解説（（社）日本道路協会）」及び「車両用防護柵標準仕様・同解説（（社）日本道路協会）」による。

〔廿一〕

1. 色彩はダークブラウンを標準とするが、地域の状況を考慮し、他の色彩を選定できるものとする（北陸地方整備局設計要領（道路編）参照）。鋼製防護柵において基本とする色彩の標準マンセル値

基本色名称	標準マンセル値	基本色名称	標準マンセル値
ダークブラウン(こげ茶)	10YR 2.0/1.0 程度	ダークグレー(濃灰色)	10YR 3.0/0.2 程度
グレーベージュ(薄灰茶色)	10YR 6.0/1.0 程度	オフホワイト(乳白色)	10YR 8.5/0.5 程度

なお、アルミ製、ステンレス製、メッキ製（下地処理を除く）防護柵は、塗装を行わないことを基本とする。

2. 支柱から路肩の離れについては、特に注意すること。
  3. 根巻ブロックはプレキャストコンクリートを標準とし、その構造規格は、「土木用コンクリート製品 設計便覧」による。  
なお、支柱との間隙にはコンクリートモルタルを充填するものとする。
  4. コンクリート建込みの場合、構造物の当該部分が無筋コンクリートまたはそれに近い場合は補強鉄筋(SD295A)を配置する。  
また支柱と構造物の間隙には上下にアスファルトでシールし、中間部には砂を充填する。
  5. 基礎材は再生碎石(RC-40)を標準とし、施工にあたっては十分な締固めを行う。
  6. 基礎材の厚さは10cm程度とし、施工幅は施工に必要な余裕(5cm程度)をもたせる。
  7. ビームの中心高さは、路面からの高さをいう。
  8. C種の積雪ランク4については、型式Gr-B4-2E又はGr-B4-2Bを適用する。また、積雪ランク5については、型式Gr-A5-2E又はGr-A5-2Bを適用する。

年度			
事業名			
工事名			
箇所	市	町村	地内
図面			
図面番号	/	枚の内	
富	山	県	